

日本簿記学会ニュース

No. 72:12 / 2023

《大会・部会の経過報告》

第39回全国大会は2023年8月26日(土)および8月27日(日)に駒澤大学(準備委員長:桑原正行氏), 第39回関東部会は2023年6月24日(土)に帝京大学(準備委員長:岩崎健久氏), 第39回関西部会は2023年5月27日(土)に広島経済大学(準備委員長:角裕太氏)を主催校として各々開催されました。詳しい内容は本紙大会・部会記をご覧ください。

《大会・部会・コンファレンスのご案内》

第40回関西部会は愛知学院大学にて, 第40回関東部会は法政大学にて, 第40回全国大会は神戸大学にて開催される予定です。

詳細ならびにコンファレンス(オンライン)につきましては, 学会ホームページで随時公開してまいります。

《第39回全国大会正社員出席者状況》

	全 体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	178名	143名	10名	0名	9名	16名
比 率	100.00%	80.3%	5.6%	0.0%	5.0%	9.0%

(注) 各区分の比率を小数点第1位未満で四捨五入しているため, 僅少差0.1%が生じておりますが, 便宜上, 表示しておりません。

《選挙管理委員会》

令和5年8月26日(土)に開催されました第39回全国大会会員総会において, 第40回全国大会時に行われる役員選挙に向けて, 選挙管理委員会が設置されることが報告されました。委員会のメンバーは以下の通りです。

選挙管理委員: 委員長 倉田幸路(法政大学)

委 員 石光 裕(京都産業大学), 坂上 学(法政大学), 戸田龍介(神奈川大学),
兵頭和花子(兵庫県立大学)

幹事: 安間陽加(神戸大学), 小澤康裕(立教大学), 小阪敬志(日本大学), 中溝晃介(松山大学),
松下真也(京都産業大学), 吉田智也(中央大学)

《令和5・6年度研究部会のテーマおよびメンバー》

令和5・6年度研究部会のテーマおよびメンバーが、第39回全国大会会員総会にて下記の通り承認されました。

簿記理論研究部会 テーマ：「アンケート調査に基づく現代簿記論の研究」

部会長：市川紀子（駿河台大学）

（メンバー）小野正芳（日本大学） 中村亮介（筑波大学） 菱山 淳（専修大学）

吉田智也（中央大学）

（オブザーバー）坂上 学（法政大学） 角ヶ谷典幸（一橋大学） 新田忠誓（一橋大学名誉教授）

原 俊雄（横浜国立大学）

簿記教育研究部会 テーマ：「『高等学校学習指導要領』の趣旨に基づく簿記教育の研究－「見方・考え方」を働かせた円滑な学びの過程の実現による「資質・能力」の育成－」

部会長：江頭 彰（福岡大学）

（メンバー）梅田勝利（九州共立大学）

片桐俊男（東海学園大学）

岸川公紀（中村学園大学）

木戸田力（かなざわ食マネジメント専門職大学）

清川康雄（指宿市立指宿商業高等学校）

新谷 弥（札幌国際大学）

鈴木友則（群馬県立高崎商業高等学校）

高橋幸太（宮崎県立宮崎商業高等学校）

玉繁克明（広島修道大学）

張 麗琦（佐賀女子短期大学（非））

鶴見正史（愛知産業大学）

土井貴之（中村学園大学）

富高将王（大分県立津久見高等学校）

中村光夫（甲府市立甲府商業高等学校）

矢野沙織（西日本短期大学）

（顧問）岩崎 勇（九州大学名誉教授）

（研究協力者）山浦弘照（実教出版（株））

簿記実務研究部会 テーマ：「検定簿記と会計実務の関連性に関する研究」

部会長：加藤大吾（加藤大吾公認会計士事務所）

（メンバー）加瀬きよ子（東京都立第一商業高等学校） 片岡洋人（明治大学）

金子友裕（東洋大学）

川村義則（早稲田大学）

中野貴元（全国経理教育協会）

西村和朗（公認会計士・税理士）

村橋秀一（公認会計士）

山下修平（国士舘大学）

（オブザーバー）梅原秀継（明治大学） 増子敦仁（東洋大学） 吉田智也（中央大学）

《令和5年度日本簿記学会学会賞および奨励賞について》

令和5年度の日本簿記学会学会賞および奨励賞は、学会賞審査委員会（委員長：橋本武久，委員：原 俊雄，清水泰洋，峯 正哉，山口峰男）における選考とその結果報告を受けて、理事会において次のように決定した。

学会賞：授賞対象なし

奨励賞：松下真也「複式簿記のコントロール機能の教育に向けて－取引損益と商品販売事業戦略の意思決定－」『簿記研究』第5巻第2号，2022年

【奨励賞講評】

受賞作：松下真也「複式簿記のコントロール機能の教育に向けて—取引損益と商品販売事業戦略の意思決定—」『簿記研究』第5巻第2号，1-8頁，2022年

本論文は、簿記のコントロール機能の教育への導入可能性について、複式簿記と商品販売事業戦略の意思決定との関係を主張した Basu, S. and G. Waymire (2020) *The Evolution of Double-Entry Bookkeeping* をベースに、複式簿記における取引損益情報によるコントロール機能を明らかにしたものである。

すなわち本論文では、Basu and Waymire (2020) を丁寧に分析した上で、同論文が単式簿記と複式簿記を二項対立関係で捉えているのに対して、本論文は単式簿記と複式簿記を補完関係で捉え、単式簿記（補助簿としての商品有高帳）を包含する複式簿記を採用する場合、単式簿記を包含しない複式簿記を採用する場合よりも、取引利益をより早く測定できることを主張している。

さらに本論文では、教育面にも議論を展開し、「単式簿記を包含しない複式簿記」を採用する場合よりも、「単式簿記を包含する複式簿記（主要簿と補助簿から構成される帳簿組織）」を採用する方が、適時性と詳細さを併せ持った効果的な取引利益測定を可能にすることから、単式簿記を包含する複式簿記の教育が重要であること、そして同時に、売上原価対立法の教育が重要であると結論づけている。

なお、このように本論文は、大変革新的かつ意欲的な主張を含んでいることから、審査会においては、簿記のコントロール機能に対する補助簿の位置づけや、売上原価対立法を前提とすることの是非について議論があったものの、これらは今後への期待であり本論文の価値を少しも損なうものではないと判断した。

そこで、日本簿記学会学会賞審査委員会は、本論文が簿記理論研究だけに留まらず簿記教育研究面においても貴重な視座を提供し、かつ本奨励賞としての適合性、新規性も非常に高いと考えられることから、2023年度日本簿記学会奨励賞を授与するに値するものと全会一致で決議した。

《日本簿記学会学会賞審査委員会からのお願い》

学会賞審査委員会では、会員の皆様からの学会賞候補にふさわしい著書等のご推薦をお願いいたします。推薦の手続等については、学会ホームページをご確認ください。また、推薦書籍等については5部ご提出ください。

日本簿記学会学会賞審査委員会

《全国大会記》

日本簿記学会第39回全国大会記

駒澤大学 桑原正行
準備委員長

1. 概要

日本簿記学会第39回全国大会は、2023年8月25～27日の3日間にわたって駒澤大学で開催された。熱さの厳しい時期での開催であったが、170名を超える会員の参加があった。今大会では、前会長である佐藤信彦先生（熊本学園大学）による記念

講演が行われ、統一論題では「各研究領域から見た複式簿記」をテーマに4名の先生方から見た複式簿記に関する報告が行われた。この他にも、自由論題報告では5つのテーマによる6名の先生方からの報告、簿記理論研究部会最終報告では、部会長の吉田智也先生（中央大学）が「新会計基準等が想定する帳簿記録と会計情報の研究」というテーマで、簿記教育研究部会最終報告では、部会長の清水泰洋先生（神戸大学）が「簿記のオンライン教育に関する研究」というテーマで報告が行われた。なお、

26日(土)の午前中には、高校簿記教育懇談会が開催され、増子敦仁先生(東洋大学)が「近年の日商簿記検定の現状について」というテーマで講演され、高校教員だけでなく多くの簿記学会会員が参加された。

2. 記念講演

佐藤信彦先生による「簿記研究及び簿記学会の役割と課題」と題する記念講演が行われた。この講演において、簿記学会の役割として、「簿記」に関して一般に広まっている誤解(AIによって会計系の仕事がなくなったり、簿記会計を勉強する必要がなくなる等)を解くこと、そして簿記が簡単で、しかも有用であるという点を周知することが挙げられた。また、最後に、「理論」だけでなく「実務」・「教育」にも照準を合わせている簿記学会は、忌憚ない意見の交わせる仲間が集まる場というメリットを挙げ、今後もより活発な議論を続けていくことが重要であると述べられた。

3. 統一論題報告・討論

統一論題報告に先立ち、座長の清水泰洋先生から、現在一般に理解されている複式簿記は「標準形」といえるものであるが、各研究領域から見ると標準形の複式簿記機構が持つ特徴や特異点が浮き彫りになる可能性があることを指摘し、報告と討論を通じて、取引記録の在り方について考察することが目的であると述べられた。

第1報告 金子善行先生(帝京大学)

「無償取引と簿記上の取引」

法人税法上の無償取引から生じる収益が「簿記上の取引」として認識され得るかどうか、無償取引からあらゆる収益が認識され得るのか、無償取引から収益を認識する場合にいかなる仕訳が行われ得るか、についての報告がなされた。

第2報告 河合由佳理先生(駒澤大学)

「国際会計からみた複式簿記」

簿記の学習経験がある上級学年や会計の発展的学習を進める国際会計論学習者に対して簿記学習に関するアンケート調査を実施し、そこからの分析によって国際会計を学習することで得られる簿記の学習効果や課題に関する報告がなされた。

第3報告 兵頭和花子先生(兵庫県立大学)

「非営利組織の複式簿記」

非営利組織における複式簿記の導入は、NPO法人においてどのような意義を持つのか、また、無償又は著しく低い価格で物的サービスを受領した場合に、その内容を活動計算書に計上する意義について報告がなされた。

第4報告 望月信幸先生(熊本県立大学)

「複式簿記による記録と管理会計情報」

どのような複式簿記による記録が管理会計に有用な情報を提供すると考えられるのかについて考察し、ITの発展による帳簿概念の変化やAIの導入による実績にもとづいた予測データをどのように扱うかといった課題が挙げられた。

最後に、ご参加いただいた会員の皆様方、ならびに司会をお引き受けくださった理事の先生方、幹事の先生方に厚くお礼申し上げます。

《関西部会記》

日本簿記学会第39回関西部会記

広島経済大学 角 裕 太
準備委員長

日本簿記学会第39回関西部会は、2023年5月27日(土)に広島経済大学を主催校とし、神戸大学の先生にご協力いただき開催した。新型コロナナ

ウィルス感染症の収束を受けて、関西部会としては、第35回(兵庫県立大学)以来の対面での開催となった。参加者総数は、会員・非会員を含め、49名となった。

本部会においては、多くの先生方に十分な時間の中でご報告いただきたいという考えのもと、自由論題報告のみの構成とした。当日は、3題の自由論題

報告が行われた（各報告時間は30分、コメント・質疑応答の時間は10分とした）。

紙幅の都合もあり簡潔な紹介にとどまるが、以下、各報告について記す。第1報告では、中村恒彦氏（桃山学院大学）の司会のもと、中村将人氏（中京大学）による「初期札幌農学校における簿記教育」の報告が行われた。そこでは、戦前期日本の農業簿記の系譜を明らかにすることを問題意識として、札幌農学校におけるカリキュラム、教員、受講ノート、などから、当時の農業簿記の立ち位置、農業簿記の教育状況や展開についてご報告いただいた。とりわけ、札幌農学校における設立計画時のカリキュラムやその後のカリキュラム改正等の内容をもとに、農業簿記（簿記知識）がどのように普及、展開していったのかについて詳細なご報告がなされた。本報告に対しては、清水泰洋氏（神戸大学）、梶原太一氏（高知県立大学）、吉田智也氏（中央大学）、杉田武志氏（大阪経済大学）、藤井秀樹氏（金沢学院大学）よりコメント・質問が寄せられた。第1報告を通じて、戦前における簿記教育の展開についてより理解を深めることができた。

第2報告では、石光裕氏（京都産業大学）の司会のもと、江頭彰氏（福岡大学）による「商業の見方・考え方を働かせる授業構想について」の報告が行われた。そこでは、令和4年4月から実施された「高等学校学習指導要領」の目標の1つでもある「商業の見方・考え方を働かせる」（「企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付けることを意味している」という観点から、簿記の授業においてその点を充実させるためには、どのような方法がより良いのか、具体的にご報告いただいた。とりわけ、学習指導要領の指導項目に示されている現金と預金の単元を対象に、その「見方・考え方を働かせた」授業内容についての詳細なご報告がなされた。本報告に対して、橋本武久氏（京都産業大学）、安井一浩氏（神戸学院大学）、岸川公紀氏（中村学園大学）よりコメント・質問が寄せられた。

第3報告では、石光裕氏（京都産業大学）の司

会のもと、児島記代氏（金沢学院大学）による「他勘定振替高とは何か―簿記教育の現状を踏まえた理論構築の試み―」の報告が行われた。そこでは、他勘定振替高に関する説明・その教授法の現状について、簿記テキストを通じて明らかにするとともに、その性質と理論的背景を詳細にご報告いただいた。とりわけ、現状、簿記テキストにおいて他勘定振替高に関する理論的説明が乏しいことを背景に、その理解をよりスムーズかつ深めるための説明理論の構築に関して、詳細にご報告いただいた。本報告に対して、宮本幸平氏（神戸学院大学）、吉田智也氏（中央大学）、安井一浩氏（神戸学院大学）、松下真也氏（京都産業大学）、清水泰洋氏（神戸大学）よりコメント・質問が寄せられた。

第2、第3報告を通じて、今後の簿記教育、とりわけ高等学校・大学での教育の発展にどのような視点や内容が必要なのかについて、より理解を深めることができた。

上記のとおり、各報告において多くのコメント・質問が寄せられ、活発な議論がなされた。歴史的観点、また教育的観点からの幅広いテーマでのご報告とそこでの議論を通じて、簿記の理論、実務、教育がより発展、充実したものと考えている。最後に、本部会開催にあたっては、ご報告いただいた先生、ご参加下さった先生、準備段階からご協力いただいた先生など多くの方々に、ご支援賜った。盛会のうちに終えることができたのは、多くの先生方のお陰である。改めて御礼申し上げ、第39回関西部会の報告とさせていただきます。



日本簿記学会第39回関東部会記

帝京大学
準備委員会事務局 西山一弘

日本簿記学会第39回関東部会は、6月24日(土)に帝京大学八王子キャンパスで開催された。本部会は会員外の参加も含め約60名の方にご参会いただいた。改めて参加された皆様のご協力に感謝したい。

本部会は、統一論題報告および討論と自由論題報告によって構成した。統一論題は「経営環境の変化と簿記」とし、座長の坂上学氏(法政大学)から解題をいただき、市川紀子氏(駿河台大学)、山矢和輝氏(帝京大学)、畑中孝介氏(税理士)に報告いただいた。

座長解題においては、近年の経済環境やデジタル環境の劇的な変化の下での簿記のあり方について簿記会計の実務がどのように変容していくか、そしてそれにどのように対処すべきかについて3氏の視点を交えて解説が行われ、その後の報告において簿記会計の実務の変容およびその対処についての簿記研究のあり方が統一論題の共通視座となっていることが示された。

紙幅の都合もあり簡潔な紹介にとどまってしまうが、統一論題報告における報告内容の概要を記す。まず、第1報告の市川氏の報告論題は「会計観の変容が簿記処理に与える影響—収益認識会計基準を題材に—」であった。同報告は、副題にもある通り企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」を題材に、主に当該基準における会計観の変容がもたらす具体的な簿記処理の変化を明らかとし、取引記録の顛末という点で変化が生じる可能性が詳細な仕訳例とともに示された報告であった。

第2報告の山矢氏の報告論題「Robotic Process Automation (RPA) が簿記に与える影響—英文学術雑誌の文献レビューを通じて—」では、わが国の企業や自治体において利用が進み始めているRPA

と簿記の関係性に注目した報告が行われ、RPAは単純な業務効率の向上に役立つだけでなく、会計情報の質的特長である適時性や正確性にも貢献しうることが指摘された。

第3報告の畑中氏の報告論題「IT環境の変化による分析手続きの進化」では、税理士として普段業務を行われている実務家としての視点により、特に、クラウド会計と管理会計ひいては簿記とのかかわりを中心に報告が行われた。データとしての簿記記録の役割がビッグデータ作成時間の短縮に伴い変化していくことが明らかとなっている。

統一論題報告ののち2件の自由論題報告があった。第1報告は、渡辺竜介氏(関東学院大学)による「取締役の報酬等として株式を無償交付する取引及びストック・オプション取引に関する会計処理について—費用計上と貸方項目計上額の観点から—」があり、司会・コメンテーターは吉田智也氏(中央大学)にお引き受けいただいた。同報告は、ストック・オプションの会計処理を題材とした、費用認識と貸借対照表項目のあり方に検討が加えられ、報告後には司会を含めた議論が行われた。第2報告は、生島和樹氏(岩手県立大学)による「資産除去債務の借方計上項目における簿記処理の検討」であり、司会・コメンテーターは平野智久氏(北海道大学)にお引き受けいただいた。同報告は、資産除去債務の両建処理、特に借方に注目して報告が行われ、報告後には司会の平野氏を中心とした活発な議論が行われた。両報告とも、報告後に質疑のみではなく議論が展開されたことは開催校としてうれしい限りである。

その後、統一論題討論が行われ、まず坂上座長から各報告者に質問が投げかけられた。各報告者は、座長およびフロアに対して詳細な説明を行った。そののち、フロアの参加者からの質問に基づき、活発な議論が行われた。

本部会は、まだコロナ禍の影響もあり、オンラインを併用した開催の可能性もあるなかで対面のみで開催となった。開催に際しては、会員の皆様からの

懇親会の開催希望もあったが、開催校の都合により叶わなかったことはこの場を借りて謝罪したい。最後に、開催にかかわるご案内が遅くなってしまったにもかかわらず、多くの会員の皆様にご参加いただき、心よりお礼申し上げます。



令和4年8月6日以降、令和5年8月24日までに申し込まれ、6月11日および8月25日開催の理事会で入会が承認された新会員は以下の通りです。

入会会員名簿

(名簿の番号は会員番号)

番号	氏名	所属機関	番号	氏名	所属機関
2023-001	本間 正人	秀明大学総合経営学部	2023-014	磯本 光広	鎮西学院大学
2023-002	中村 光夫	甲府市立甲府商業高等学校	2023-015	田中 伸治	南九州税理士法人
2023-003	石川 智寛	札幌国際大学短期大学部	2023-016	島崎 杉雄	国士舘大学経営学部
2023-004	西村 和朗	西村和朗公認会計士・税理士事務所	2023-017	村井 英紀	税理士
2023-005	村橋 秀一	村橋公認会計士事務所	2023-018	兼武 順一	佐賀県立佐賀商業高等学校
2023-006	片岡 洋人	明治大学専門職大学院会計専門職研究科	2023-019	上田 敬	松本大学松商短期大学部
2023-007	小笠原貴和子	鹿児島県立山川高等学校	2023-021	篠藤 涼子	大阪経済大学
2023-008	吉岡 正道	Laboratoire interdisciplinaire de recherches en sciences de l'action	<準会員>		
2023-009	中谷 俊雄	京都明德高等学校	2023-011	罇 涼稀	筑波大学大学院
2023-010	行待 三輪	京都産業大学経営学部	<賛助会員>		
2023-012	木内 沙弥	千葉商科大学	2023-020	カシオ計算機㈱	
2023-013	張 麗琦	Kirk University			

編集後記

理事会がオンラインで開催される等、学会運営の効率化のため、コロナ禍における新たな取組の一部は継続していますが、本ニュースでお示した通り、学会活動が正常化した1年でした。これからもより一層、学会活動が適切かつ活発に運営されるよう幹事一同務めてまいります。(安間・小澤・小阪・中溝・松下・吉田)

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

事務連絡所

〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15
株式会社白桃書房

e-mail boki@hakutou.co.jp
URL <https://www.hakutou.co.jp/boki/>